

# みんなのた場

## しきなみ短歌コンクール特選

北村小1年生 遠藤 則晴君



「第8回しきなみ子ども短歌コンクール」(社団法人倫理研究所主催)低学年の

部で、北村小学校1年の遠藤則晴君の作品が特選に輝きました。遠藤君は「びっくりしたけれど、すごくうれしい。6年間、ランドセルを大切に使用してたくさん勉強をがんばります」と受賞の喜びを語っていました。コンクールは、全国の小学生を対象に低中高学年の部に分けて作品を募集しました。応募総数は約6万5千人



特選に輝いた遠藤君

いただいた  
しえんぶっしの  
ランドセル  
なつやすみです  
いつもありがとう

で、このうち特選に選ばれたのは30人。遠藤君は、低学年の部で県内唯一の特選を受賞しました。受賞作品は、震災後の困難な状況乗り越え、ランドセルとともに夏休みを迎えられたことへの感謝を込めました。

入学前の就学時健診で、全国から寄せられたランドセルや文房具等の支援物資を受け取り、「とてもうれしかった」と振り返り、遠藤君は「来年もコンクールがあれば挑戦したい」と意欲を見せていました。



## 「太鼓で地域を元気に」

鮎川小学校「牡鹿銀鱗太鼓」を指導

齋藤 富嗣さん

震災後、鮎川小学校の児童が取り組んでいる子ども太鼓「牡鹿銀鱗太鼓」の指導者として、地域の伝統芸能を子どもたちに伝えていきます。児童が奏でる和太鼓の音色には「地元のみんなを元氣付けたい」との願いが込められており、イベント等で積極的に演奏を披露しています。

現在、練習は週1回、同小

学校で行われていて、これまで、牡鹿のれん街の1周年感謝祭や東北電力クリスマスドリム等地域のイベ

ントで演奏を披露し、地元の方々に喜んでもらうことが、児童の意欲にもつながっています。齋藤さんは、「子どもたちが成長し、地元を離れても古里で学んだ伝統芸能は、心の中にずっと残る」と話し、地域の誇りを次世代へ伝える喜びを、しっかりとかみしめながら指導にあたっています。

また、和太鼓の魅力や「四季折々の風景や喜び、悲しみ、願いなども表現できる、あらゆる力を持った楽

器」と語った上で、「子ども

たちの太鼓は地域を元氣付ける原動力。まちが元気になるきっかけとして、皆で力を合わせて伝統芸能を伝えていきたい。今後も和太鼓を通して、一緒に地域を盛り上げていきたい」と抱負を語っていました。



鮎川小学校の子どもたちに太鼓を指導する齋藤さん

### 投稿募集

#### ◇投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

問 秘書広報課(内線4025)

〒986-8501(住所不要)

Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp



南 久美子

(遊墨漫画家 京都府出身・在住)

### 石巻なごみ伝心板

#### 第三回「孤独じゃないよ」

時は忘却を連れて来るといけれど、どれほど時を重ねても、その場に根を張りビクとも動かぬ「忘れぬ事」があるとしたら、それは二年前のあの日ですね。

人は孤独で生まれ孤独で死んでいくものだというけれど、縁あって共に生きてきた家族や友人をもぎ取られた傷跡はそう簡単には癒されません。

しかし、日々の暮らしの中で、たとえ他人の輪に入る事が苦手でも、笑顔を交わせる人を一人二人と増やしていくことは、それらの傷への治癒力を確実に高めていく事だと私は思います。

### まちの話題

#### 石巻地区

慌てず騒がず  
冷静に

1月24日(木)  
門脇中学校



門脇中学校で、緊急地震速報システムを活用した避難訓練を実施しました。このシステムは、文部科学省の「実践的防災教育総合支援事業」により、市内10校をモデル校として設置したもので、地震速報を受信すると、学校の放送設備から警報や地震到達時間を知らせるアナウンスが自動的に発報されるものです。生徒たちは机の下に避難する訓練等、真剣に取り組んでいました。

#### 石巻地区

身近な地域  
人々に目を向けて

2月3日(日)  
渡波公民館



第41回渡波地区意見発表会が開かれました。地域住民が日ごろ考えていること等を発表することで青少年の健全育成とより良いまちづくりを目指そうと毎年行われているものです。

今年は小学生から一般までの14人が登壇し、友人や部活動、地域の復興等、さまざまなテーマで意見発表を行いました。訪れた約100人の地域住民が耳を傾け、堂々とした発表に大きな拍手を送りました。